

パブリックコメント結果について

計画（素案）に対するご意見をいただきありがとうございました。

提出された意見の内容（概要）及び意見に対する町の考え方は、次のとおりです。

【計画名】

栄町第6次障がい者計画・第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画

（令和6年度～令和8年度）

【パブリックコメントの結果】

意見書提出件数 3件

【意見の反映状況】

No.	意見の内容	町の考え方	反映結果
1	図表の棒グラフやアンケート結果の棒グラフの最大値と最小値に対し、軸のスケールが合っていない。グラフ化する意味が無くなっている。	特に、アンケート結果の説明については、グラフがある方がわかり易いため、回答の割合（%）が少ない項目については横軸の数値を修正して表記します。 P9の「図表については、棒グラフと折れ線グラフが重ならない範囲で縦軸の数値を修正して表記します。	反映した意見
2	アンケートの回答率の合計が100%になっていない（端数調整がされていない）。	アンケート結果については、端数調整の対象となる回答が複数ある中から1か所だけ選んで調整する場合、その1か所を選ぶこと自体に「作成側の主観」が入ることになる（客観性が保たれない）と考え、あえて端数調整は行わず、集計結果のまま掲載しています。	反映しなかった意見
3	アンケート結果全体的に、前回調査との比較ができるように記載した方が良かったように思う。	アンケート項目については、新しい制度に関する内容や町としてこれまでよりも詳しく把握したいと考えて設定した項目など、前回の調査では質問していない（比較できない）項目も多くあったことから、調査結果については、今回の結果のみ記載しています。 次回の第7次障がい者計画策定時におけるアンケート調査時において、今回の意見を踏まえて質問項目の設定を行います。	今後の参考とする意見

4	<p>アンケート結果の横棒グラフは、上から下に割合の多い順から並べるべきではないか。</p>	<p>横棒グラフの並べ方は、ご意見いただいたように、①回答割合の多い順に並べる方法、②アンケートの設問順に回答を並べる方法の、どちらの方法を採用することも可能であると考えます。</p> <p>今回は、アンケートの設問順に回答を並べる方法を採用することで、障がいのある方自身が設問と結果を見比べながら見ることができるメリットもあるのではないかと考え、設問順のままとしました。</p> <p>次回の第7次障がい者計画策定時には、今回の意見や第6次障がい者計画の実施期間中にいただく意見の内容を踏まえて、グラフの表記方法を検討します。</p>	<p>今後の参考とする意見</p>
5-1	<p>【具体的な施策】が殆ど抽象的な表現になっているので、文字通り具体的な施策に書き直した方が良い。</p>	<p>【具体的な施策】は、P36 計画の体系図の一番右側の枠内の①等、○囲みの数字で記載している項目になります。</p> <p>これらの項目については、障がい者等の支援体制の整備を図ることを目的として関係機関及び障害当事者により構成された「栄町障害者自立支援協議会」、障がい者に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関する調査審議等を行う「栄町障害者施策推進審議会」において議論を重ね、承認を得ながら設定した内容であるため、各会議における結果を踏まえて、素案通りとします。</p>	<p>反映しなかった意見</p>
5-2	<p>表現が曖昧で、例えば「支援の充実の実現に努めます。」とか、努めようとしたが、何も出来ずとも良い様に見受けられる。全て言い切る表現に直すか、無理な施策は削除すべきでは。</p>	<p>ご意見いただきました「曖昧な部分」については、ご意見を反映した箇所について「素案後の修正点 正誤表」においてお示しいたします。</p> <p>なお、ご意見いただきました第4章の部分については、「第6次障がい者計画」に相当する内容で、障がい者のための施策を総合的に推進していくための基本計画となる部分です。障害福祉の事業は、福祉の他の分野の事業と比較して個々の事業同士の関連が多くあることから、仮に現時点で無理だと思われる施策であったとしても、他の事業等実施の影響</p>	<p>正誤表に記載</p>

		<p>を受けて施策展開が進む可能性も否定できないため、今後必要とされる施策（事業）については計画に位置付け、取り組む努力をすることが必要であると考えます。</p> <p>計画に位置付けた上で、本計画期間中に取り組めなかった事項があった場合は、取り組めなかった要因をきちんと評価し、次期計画期間で少しでも取組みが進むことを目指すといったサイクルを繰り返すことが重要であると理解しています。</p>	
--	--	---	--